

「実験・実習技術研究会 2022 東京工業大学」 参加報告

令和4年3月3日～4日 オンライン開催

岡田 秀希

製作技術課

1 はじめに

全国の大学・高専および大学共同利用機関に所属する技術系職員を対象とした標記技術研究会に参加し、社会貢献・組織運営分野において下記の通り口頭発表を行った。

2 発表要旨（タイトル：産学公民連携による科学クラブの創設と運営）

次世代理工系人材の裾野拡大を目的とした地域ネットワーク「長州科楽維新プロジェクト」の事業の一環で、元々科学技術への興味関心の高い児童を対象とした連続講座「科学クラブ」を創設した。各講座は、児童の可能性を引き出すため幅広い分野の多様なメニューを提供するとともに、限られた時間で深い体験を提供するため少人数のメンバー制の科学クラブとして運営してきた。

企画から運営までのすべてを地元の協力機関・団体・個人との協働で進め、必要経費（物品費、謝金、旅費、施設使用料、印刷費、傷害保険料）は、山口県補助金や地元企業からの寄付金など外部資金を活用してきた。受講生の募集は、対象学年の児童へのチラシ配布のほか、市報への記事掲載、公共施設からの声掛け等により行っている。年度を重ねるごとに講座の知名度は向上しており、保護者間の口コミによる拡がりも認められている。

令和3年度末時点で、下関市の科学クラブ（平成24年度～）は節目の10年目を、萩市の科学クラブ（平成28年度～）はコロナ禍による1年間の休眠を挟んで5年目の活動を終えた。これまでの受講人数は、両クラブ合わせて1,557名となった。（令和4年度も計画通り開講し [1] [2]、新しいメンバーを迎え順次講座を運営している。）

一方、上記の科学クラブに加え、周南市と宇部市の小学校において正課の科学クラブに企画の段階から参画し、整備した実験機材の有効活用を図った。



図1. 下関わくわく科楽少年隊（2019.9.21 下関市立川棚公民館）

3 おわりに

コロナ感染防止対策を含めたクラブ運営上の細かなノウハウが数多く蓄積されてきた。今後は、新たなテーマの整備や講師の発掘により、より魅力ある講座として内容の充実に努めたい。

4 参考（令和4年度の実績）

[1] 萩わくわく科学クラブ <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/news/9530/index.html>

[2] 下関わくわく科楽少年隊 <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/news/11134/index.html>